

## 新型コロナウイルス緊急事態宣言下でも奮闘する社員へ還元を！ 感染拡大⇒緊急事態宣言下でも奮闘する社員へ還元を！

「新型コロナウイルス感染症」は人類史上稀にみる深刻なパンデミックを引き起こし、政府による「緊急事態宣言」の発出により、47都道府県すべてにおいて外出自粛・休業要請が行われることとなった。中小企業をはじめ個人事業主は経営の継続が危ぶまれるどころか生活が困窮するなど、経済への影響は計り知れない事態となっている。

貨物会社においても4月の輸送動向は、新型コロナウイルス感染症による需要低迷により、紙・パルプ・化学工業品・自動車部品や家電・情報機器、エコ関連物資などが前年を大きく下回り、コンテナ・車扱の合計は前年比93.1%となっている。

一方の「2019年度決算」は、一昨年「平成30年7月豪雨」からの回復、運賃改定効果などで、景気後退局面といわれる中でも発足から4番目となる好結果となっている。

2013年度以降の決算状況は下図の通り、順調に推移し、一昨年の自然災害の影響により山陽線が100日間寸断された状況下でも、経常利益(単体)30億円を確保し、台風被害や消費税増税、新型コロナウイルスの影響を受けた昨年度は経常利益71億円と、経営状況は以前とは比較にならないほどである。

一方で変わらないのは「社員の待遇」だけだ。社員の生活は厳しさだけが押し付けられている。労苦に應えるためにも今こそ還元を求めるものである！



## 数々の災害の中でも好決算で結果を出している。！ 経営陣は、社員の生活改善に夏季手当で答えるべきだ！

5月26日、会社より収入動向についての説明が行われた。

「①4月分の収入動向は、新型コロナウイルス感染症による需要の低迷もあり、自動車部品をはじめ多くで前年及び計画を下回った。②農産品・青果物は北海道からの玉葱の発送が順調に推移し計画を上回った。また、在宅需要が堅調な積合わせ貨物も順調に推移した。③車扱いは、外出自粛により揮発油の需要が減少、セメントの輸送は堅調に推移し、計画比101.3%。④対計画で、コンテナで△795百万円(92.3%)、車扱いで+13百万円(101.3%)、全体で、△782百万円(93.1%)。⑤輸送量の動向は、農産品・青果物、積み合わせ貨物、及び車扱いのセメント・石灰石を除き前年を下回る状況で推移している。

営業日報では、①主要品目別で、エコ関連物資を除き前年を割り込む状況になった。②5月25日までの月間累計は、収入で対計画83.8%、輸送量は対前年79.0%で推移している。③年度累計は、対計画から約20億円マイナスの89.4%で推移し、輸送量は前年比85.7%となっている。」

新型コロナウイルス感染症は世界規模でパンデミックとなる中、各企業で厳しい状況が続いているが、日々の社員の奮闘で「減収」に一定の歯止めがかけられている。

年度	2001	2008	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
経常利益	2	△36	34	32	59	88	91	30	71
利益剰余金	43	106	107	125	176	297	370	360	399
人件費	582	501	404	406	403	396	406	402	410
期末手当(実質)	1.5/1.5	1.95/2.00	1.1/1.3	1.25/1.32	1.36/1.48	1.5/1.5	1.6/1.64	1.73/1.7	1.75/1.81